

財政学習教材

日本の**財政**を考えよう

国のお財布事情を知っていますか？

私たち一人ひとりの将来にかかわる日本の「おカネ」の問題について、一緒に考えてみませんか。



令和3年6月

目次

1.	「財政」とは	2
2.	国の「歳出」	3
3.	社会保障支出	4
4.	社会保障以外の主な支出	5
5.	国の「歳入」	7
6.	「税」の種類	8
7.	国の「歳出」と「税収」の推移	9
8.	国の借金の状況	10
9.	借金の国際比較	11
10.	「借金」の問題点	12
11.	高齢化と社会保障給付費の見通し	13
12.	社会保障の給付と負担の関係	14

1. 「財政」とは

- 私たちが健康で豊かな生活を送るためには、国や地方団体に、学校教育や医療など、様々な「公共サービス」を提供してもらう必要があります。
- しかし、国などが公共サービスを提供するにはお金が必要です。そのためのお金を国民みんなが出し合って（税金）、みんなの生活に役立つことざいせいに使っていく活動を「財政」といいます。

(公共サービスの例)

① 学校で勉強するために

公立学校に通う児童生徒
1人当たりの教育費

- ・ 小学校 : 約 94万円
- ・ 中学校 : 約113万円
- ・ 高等学校 : 約121万円



② 少ない負担で治療を受けられるようにするために

医療費 (国民1人当たり)

- ・ 64歳以下 : 約 2.7万円
- ・ 65~74歳 : 約 8.0万円
- ・ 75歳以上 : 約32.8万円



③ 生活に必要な道路、 洪水を防ぐ堤防などを整備するために

- ・ 18.7兆円
⇒ 国民1人当たり約14.8万円



④ 町をきれいにするために

- ・ 2.4兆円
⇒ 国民1人当たり約1.9万円



⑤ 犯罪から守るために

- ・ 3.4兆円
⇒ 国民1人当たり約2.7万円



⑥ 火事から守るために

- ・ 2.1兆円
⇒ 国民1人当たり約1.7万円



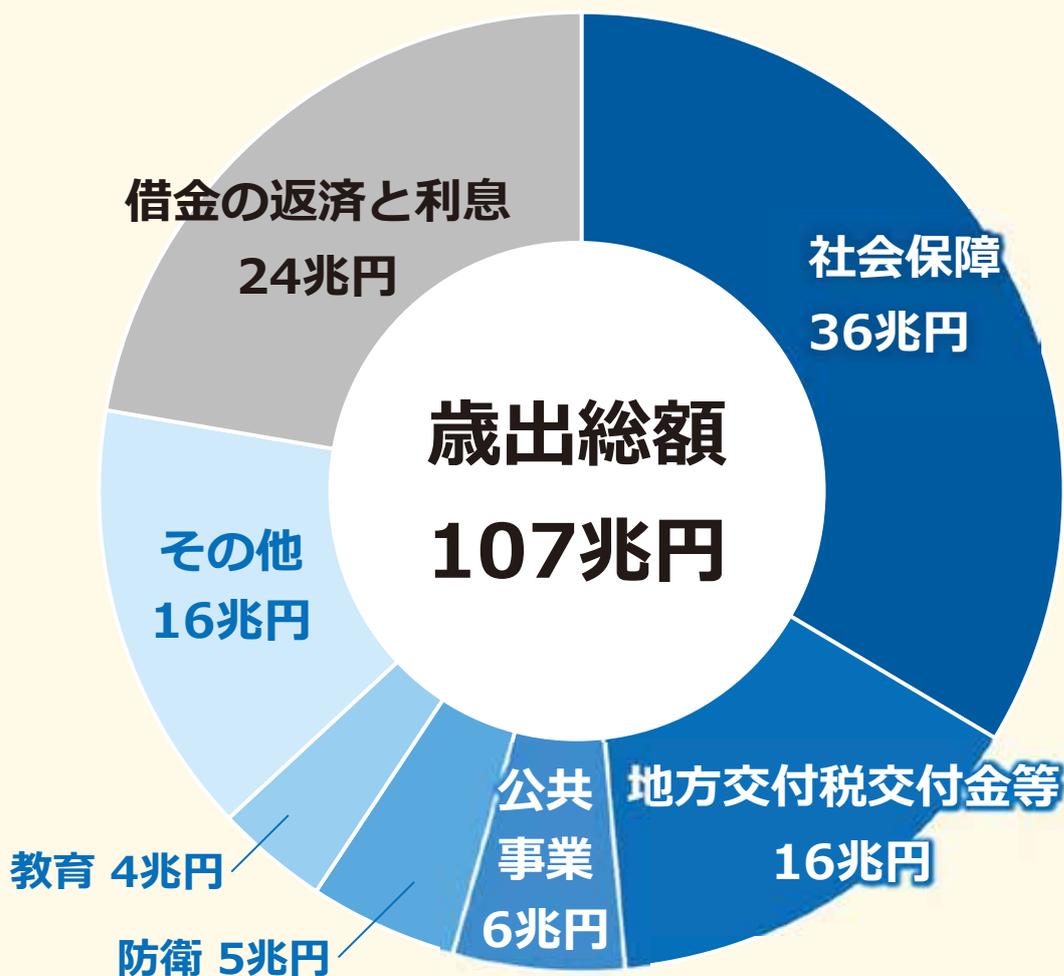
(注) ①・②は平成30年度、③~⑥は令和元年度の金額。



2. 国の「歳出」

- 国の1年間の支出を「歳出」^{さいしゅつ}といいます。
- 内訳を見ると、医療、年金、介護などの費用である「社会保障」が約3割、「借金の返済と利息」が約2割となっています。

2021年度の歳出（予算）



3. 社会保障支出

- 国が使うお金（歳出）のうち、最も大きい割合を占める支出は、社会保障の36兆円で、医療、年金、介護、生活保護、子ども・子育てのための費用などに使われています。

12兆円

医療

怪我や入院をしても、少ない自己負担（現役世代が3割、高齢者が1割～2割）で、治療を受けられるよう支援しています。



13兆円

年金

高齢者に支払われる年金の一部を国が負担し、老後の生活を支援しています。



3兆円

介護

介護認定を受ければ、原則1割の自己負担で、介護サービスを受けられるよう支援しています。



4兆円

生活保護

病気や障害で働けず、生活に困っている人などが最低限度の生活を送れるよう支援しています。



3兆円

子ども・
子育て

保育所を整備したり、子育て世代に給付金を交付することで、子どもを安心して生み、育てることができるよう支援しています。



(注) 内訳の金額は一部重複している場合があります。

「社会保障」以外の支出も見てみよう！



4. 社会保障以外の主な支出

- 「社会保障」の次に大きな支出として、どこでも一定のサービス水準が維持されるよう、国が調整して地方団体に配分する経費「地方交付税交付金等」が使われています。
- また、道路整備などの公共事業に6兆円、国を守ってくれる自衛隊の運営に5兆円、学校教育などに必要な費用に4兆円が使われています。

16兆円

地方交付税
交付金等

地方団体が提供する警察や消防、ごみ収集などの公共サービスについて、全国どこでも一定のサービス水準が維持されるよう、国が調整して必要な費用を配分しています。



6兆円

公共事業

道路や河川の堤防、ダムなどの建設・整備に使われています。



5兆円

防衛

戦争や災害が起きたときに日本の国民や領土を守る役目がある自衛隊の運営に使われています。



4兆円

教育

小中学校の児童生徒が使用する教科書の無料配布や、教職員の給料の一部負担など、教育に関する様々な支出をしています。



- このほか、科学技術の研究や食料・エネルギーの安定的な供給、開発途上国への支援など様々なものに多くのお金が使われています。

1.4兆円

科学技術 振興

▶ 人工衛星を飛ばすためのロケット開発や、新しいエネルギーや防災技術の開発など、科学技術の発展のために使われています。



1.3兆円

食料安定 供給

▶ おいしい農産物を食卓に安定的に届けたり、農業の生産性を高めるために使われています。



0.9兆円

エネルギー 対策

▶ 省エネルギーや再生可能エネルギーの技術開発や、石油・天然ガスなどを安定的に送るための調査研究などに使われています。



0.5兆円

国際協力 (ODA)

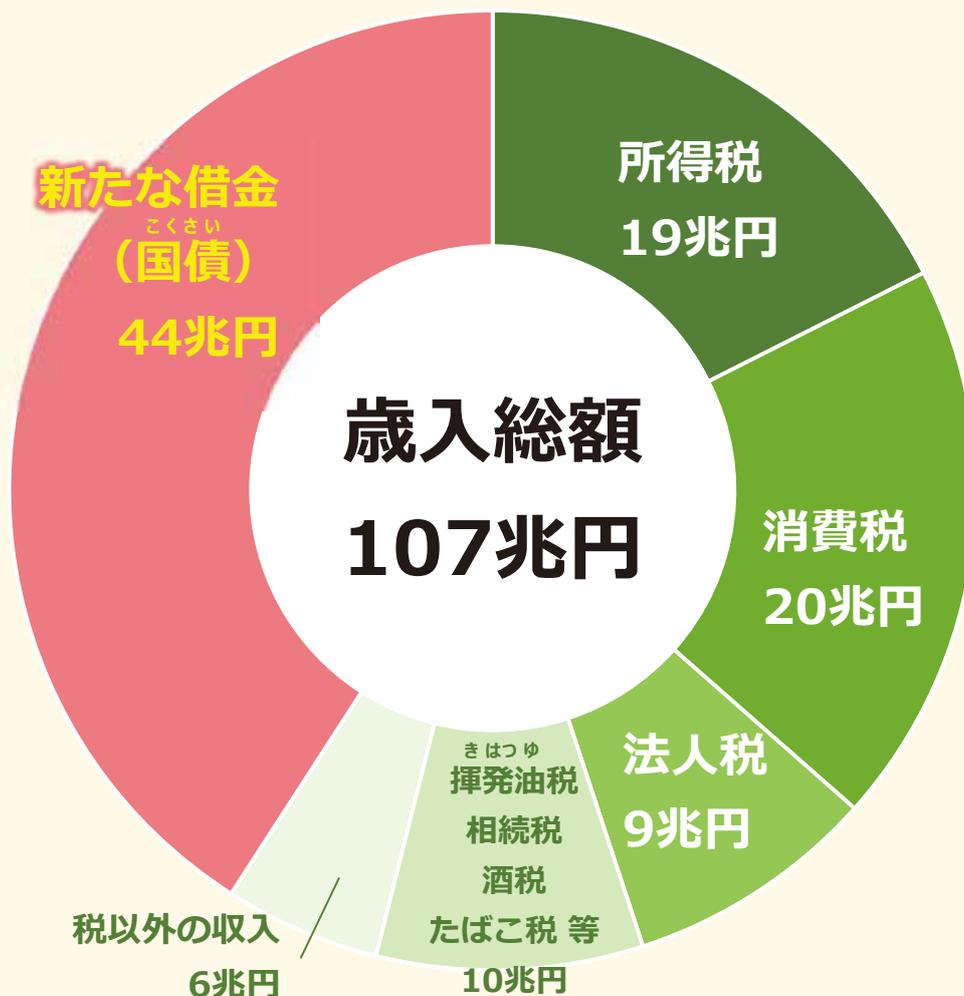
▶ 開発途上国に資金援助をして、橋や道路を整備したり、子供たちが医療や教育を受けられるようにしています。



5. 国の「歳入」

- 国の1年間の収入を「歳入^{さいにゅう}」といいます。
- 国の歳入のうち、税収は約3分の2にとどまり、残りの約3分の1は「新たな借金」で構成されています。

2021年度の歳入（予算）



「税」の種類を見てみよう！



6. 「税」の種類

- 代表的な「税」は、所得税、消費税、法人税であり、これらの合計で税収の大半を占めています。
- このほかにも、揮発油税、相続税、酒税、たばこ税などの様々な税があります。

① 個人の給料などから払う
所得税 (19兆円)



② 買い物をするときなどに払う
消費税 (20兆円)



③ 会社が利益から払う
法人税 (9.0兆円)



④ ガソリンなどを買うときに払う
揮発油税 (2.1兆円)



⑤ 財産を相続するとき払う
相続税 (2.2兆円)



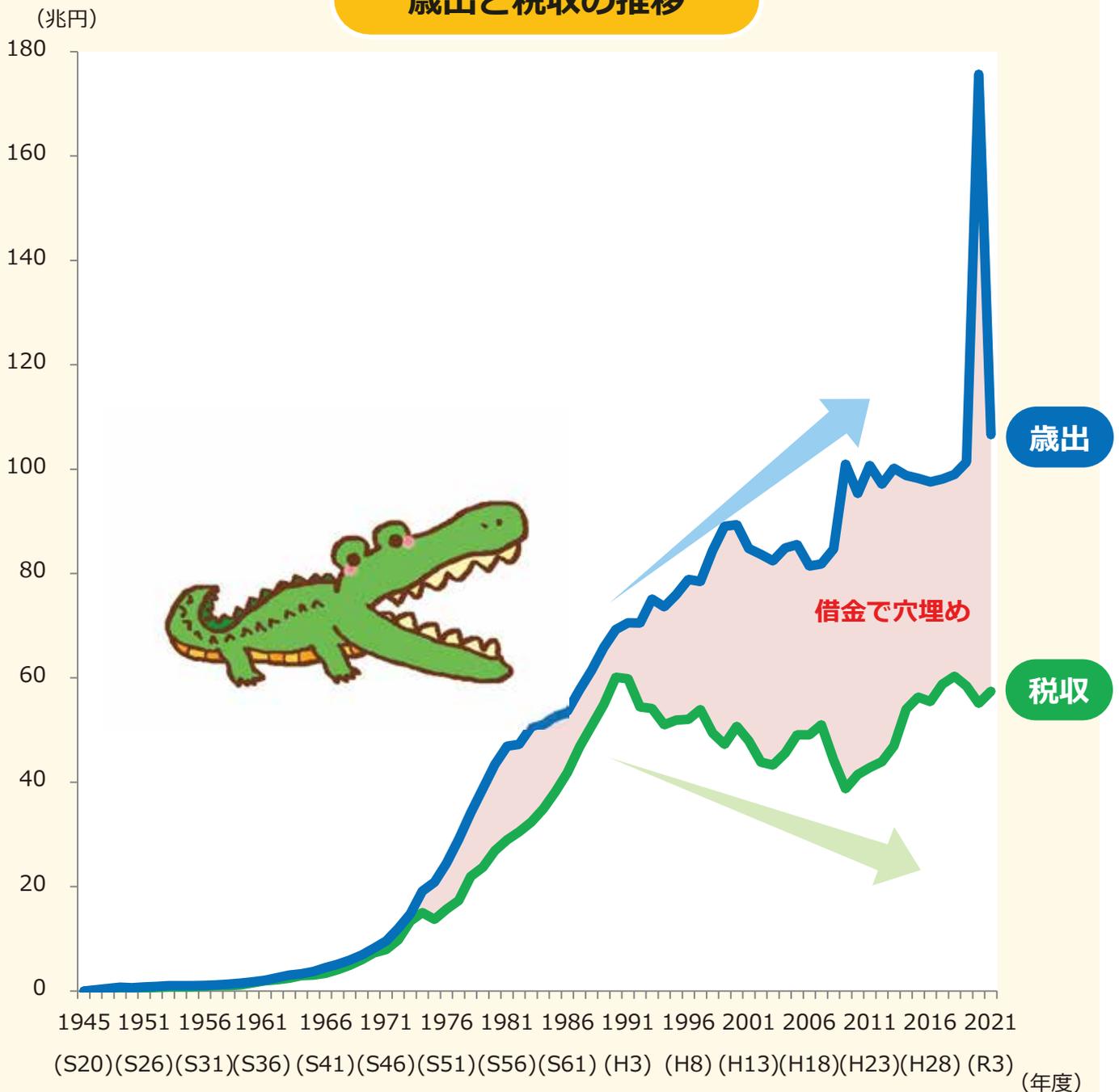
⑥ お酒やたばこを買うときに払う
酒税 (1.2兆円)
たばこ税 (0.9兆円)



7. 国の「歳出」と「税収」の推移

- これまで、「歳出」が伸び続ける一方、「税収」は1990年度を境に伸び悩み、その差はワニの口のように開いてしまいました。
- また、その差は、国が借金をして穴埋めしてきました。
- 足もとでは、新型コロナウイルス感染症への対応のため、歳出が拡大しています。

歳出と税収の推移

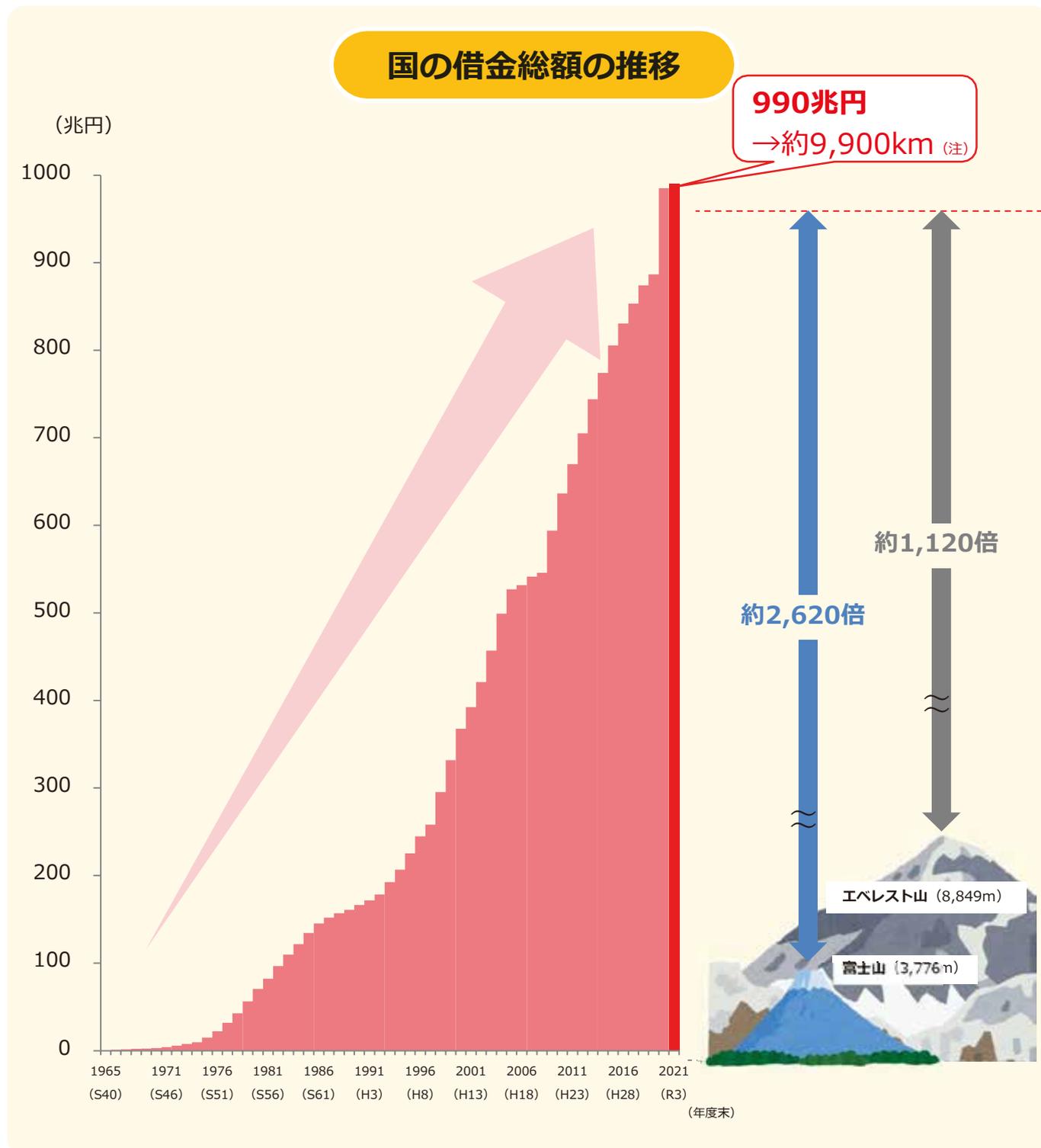


国の借金の状況を見てみよう！



8. 国の借金の状況

- 毎年借金を続けた結果、国の借金総額は大きく積み上がっています。令和3年度末の国の借金総額は、990兆円に達する見込みです。
- この借金総額は1万円札にして積み上げると、約9,990kmの高さとなり、富士山の約2,620倍、エベレスト山の約1,120倍です。



(注) 100万円の厚さ = 約1cm

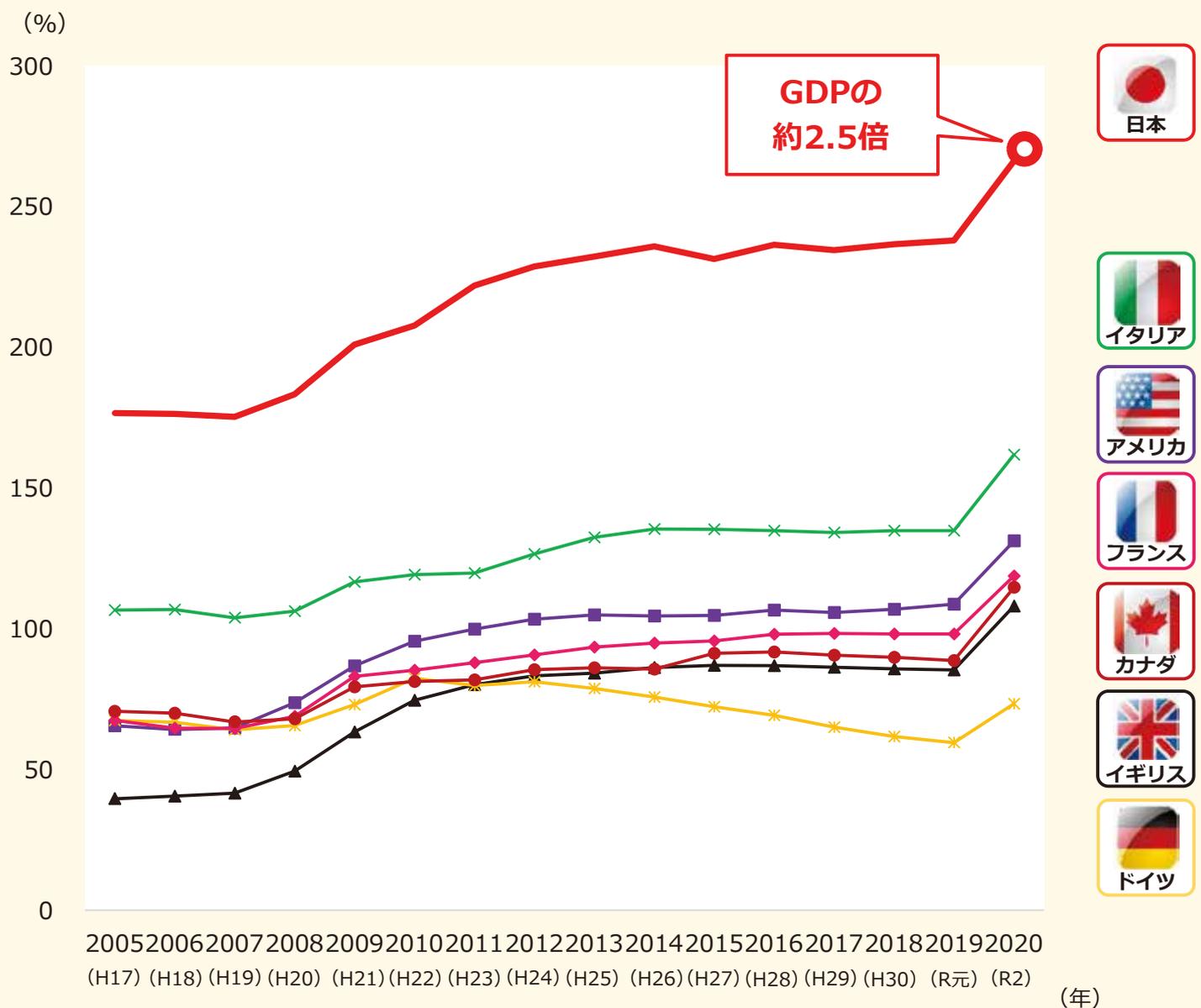
日本の借金を他の国と比べてみよう！



9. 借金の国際比較

- 日本の借金総額は、1年間の経済活動の規模（GDP）の約2.5倍に達しており、主要先進国の中で最悪の水準です。

借金の水準（借金総額÷GDP）



(注) 借金をどのくらい負担できるかは、税金を生み出す元となる国の経済規模（GDP）で変わってくるため、国際的に見た場合の借金の水準はGDPと比較して表されます。



10. 「借金」の問題点

- 今の世代が借金をして、自分たちのために支出を行うと、子どもや孫、ひ孫など、将来の世代に重いツケを回すことになります。

受益と負担のアンバランス

- ➔ 社会保障関係費の増大に見合う税収を確保できておらず、給付と負担のバランスが不均衡の状態に陥っており、制度の持続可能性を確保できていません。
- ➔ また、借金に依存する緩い財政規律のもとでは、財政支出の中身が中長期的な経済成長や将来世代の受益に資するかのチェックが甘くなりやすいです。

将来の世代における望ましくない再分配

- ➔ 将来世代のうち国債保有層は償還費^{しょうかんひ}などを受け取れる一方、それ以外の国民は社会保障関係費などの抑制や増税による税負担を被ることになりかねません。
- ➔ また、将来世代は自ら決定に関与できなかったことに税負担などを求められ、望ましくない再分配が生じます。

財政の硬直化による政策の自由度の減少

- ➔ 経済危機時や大規模な自然災害時の機動的な財政上の対応余地が狭められてしまいます。

国債や通貨の信認の低下などのリスクの増大

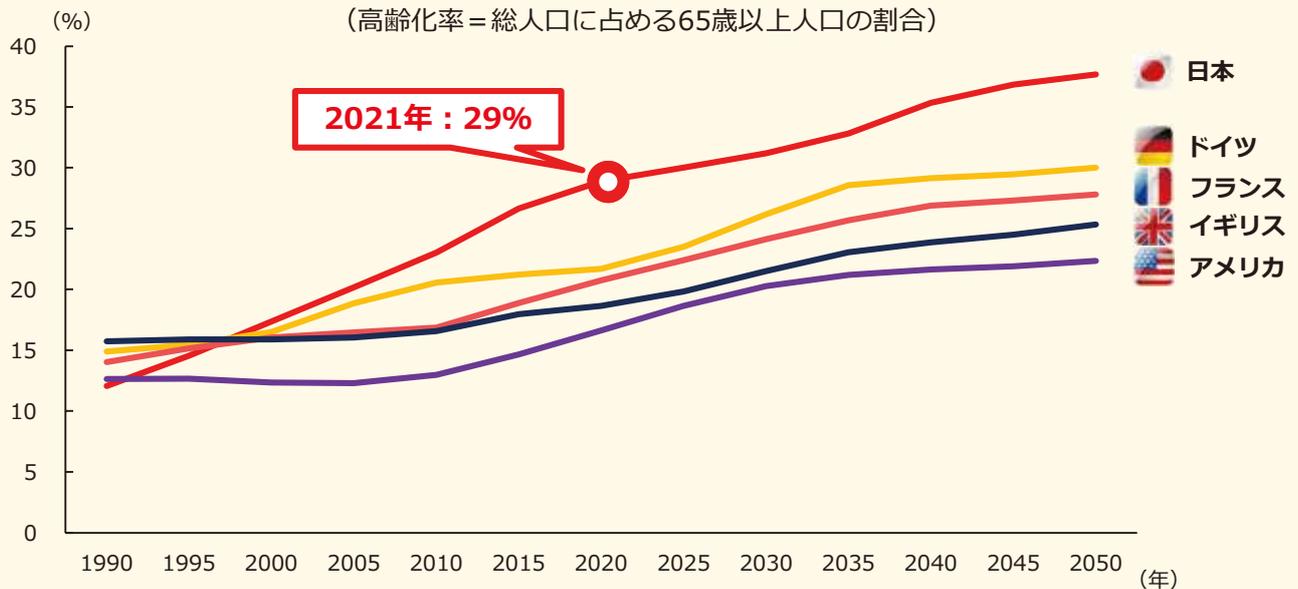


11. 高齢化と社会保障給付費の見通し

- 日本は他国よりも早く高齢化が進んでおり、将来の社会保障の給付に必要な費用は、税収を生み出す元となる経済活動の規模（GDP）を大きく上回って、急速に増えていくと見込まれています。

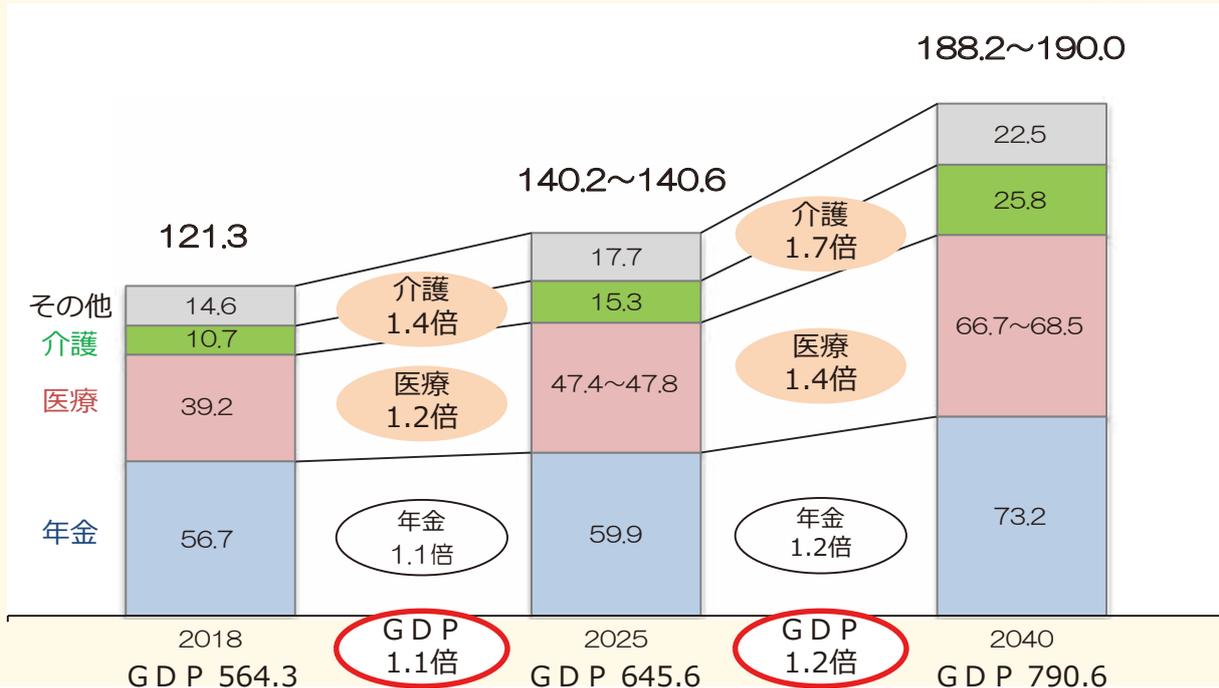
日本の高齢化率

(高齢化率 = 総人口に占める65歳以上人口の割合)



将来の社会保障給付費の見通し

(単位：兆円)



社会保障制度はどうすれば維持できるの？



12. 社会保障の給付と負担の関係

- 主要先進国に比べて、日本の社会保障は「給付」(社会保障の支出)と「負担」(税金と社会保険料)のバランスが取れておらず、その状況は今後もさらに進んでいくと見込まれています。
- 高齢化が進行する中での給付と負担のバランスについては、引き続き、国民全体で話し合っていくことが必要です。皆さんも社会保障の給付と負担を今後どうしていくか、考えてみましょう。

社会保障の給付と負担の関係 (÷GDP)

